

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2008 年 12 月 9 日 (火) 3 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,5 組+理系選択

Edited by K.Kataoka ©

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年，組，名前を記入する。
 - 学年，組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3 枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 6) に答えよ。(配点 14)

中国思想の本格的な展開は、春秋時代後期から戦国時代にかけての時期 (前 6 世紀末 ~ 前 3 世紀末) に始まる。中国思想史上第一の黄金時代で、諸子百家とよばれる数多くの学派・思想家が輩出した。そのうち主要な思想家群は、儒家、墨家、名家、道家、法家、陰陽家の六家であった。もっとも早く現れたのは儒家で、孔子を祖とし、孟子、荀子らに受け継がれて発展し、有力な学派となった。儒家は伝統的な礼に立脚し、人倫の秩序と道徳を重んじ、それを実践できる人格 (徳) を身につけることを目指し、そのために仁・義・礼・智などの徳目を説くとともに、その成果を政治の場に拡大して徳治を主張した。この「優れた人格の形成」とそれを基盤とする「徳治」の構想は [1] の道とよばれ、以後長く儒家思想の基本をなした。墨子によって代表される墨家は、儒家と同様に仁や義を説く一面もあったが、半面、(A)儒家を批判し、兼愛交利、節用、非攻など、功利主義的な主張をした。

恵施・[a]などに代表される名家は、人の認識や言語の論理を分析し考察した。現在残っている名家の資料は「白馬非馬」のような詭弁の命題が多いが、正当なものとしては「至大無外」「至小無内」などのように「絶対」あるいは「無限」の観念も自覚的に論ぜられた。道家の「無」の思想の成立は右の名家の論理に関する考察の成果と無関係ではなかったと思われる。老子と荘子の著作として伝わる(B)『老子』『荘子』によって代表される道家の思想は、「無」という性格をもった「道」を [2] としてたて、人はその無なる道に従って生きるべきだとして「無為自然」を説き、世俗の常識的・相対的な価値観にとらわれることなく、(C)もろもろの執着を超越して絶対の境地に至ることが真に自己を全うする生き方であるとした。

商鞅と [b]によって代表される法家は、儒家が重んずる自然発生的な不文律「礼」を時代後れのものとして否定し、時代の変化に適合した法 (実定法) を制定・公布するとともに、信賞必罰主義によって、貴族・平民を問わずその法を厳格に守らせ、かつ民衆を農業生産と兵戦に精勤させようとす、そのようにして富国強兵を図り、君主権の強化を目指した。陰陽家は [c] に代表される、一種の自然哲学および歴史哲学をたてた人々で、(D)陰陽と五行を原理として自然界・人間界の万般の事象の成立・変化の諸相を説明しようとした。以上の六家のほかに、農業生産の重視を説く農家、合従連衡など外交上の策略を論ずる縦横家、兵法を論ずる兵家などがあり、また複数の学派の思想をあわせ含んでいて特定の一家の思想とみられないものは雑家とよばれた。

問1 文章中の空欄 [1] [2] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの
～ のうちから一つずつ選べ。

「 1 」 [格物致知 温故知新
居敬窮理 修己治人

「 2 」 [理性の法則 万物の根源
人倫の道理 神に従う生き方

問2 文中の空欄 [a] ~ [c] に入る人名の組み合わせとして最も適当なものを、次の
～ のうちから一つ選べ。 [3]

- [a] 鄒 衍 - [b] 公孫竜 - [c] 韓 非
- [a] 鄒 衍 - [b] 韓 非 - [c] 公孫竜
- [a] 公孫竜 - [b] 鄒 衍 - [c] 韓 非
- [a] 公孫竜 - [b] 韓 非 - [c] 鄒 衍
- [a] 韓 非 - [b] 公孫竜 - [c] 鄒 衍
- [a] 韓 非 - [b] 鄒 衍 - [c] 公孫竜

問3 下線部(A)に関して、墨家の儒家批判の説明として最も適当なものを、次の
～ のうちから一つ選べ。 [4]

儒家の説く礼楽は人為の道であり偽りの道である。作為を廃して天の道に従うことが安天下の道である。

儒家の説く智の徳は無益な受験競争をもたらす。科擧を廃して実践的な行動力のある者を登用すべきである。

儒家の説く仁愛は差別的な愛である。自分と他人を区別せず、すべての人を愛するならば争乱はなくなる。

儒家の説く義は、それを貫徹しようとする争いが発生してしまう。防衛戦争も含めてあらゆる戦いを認めるべきではない。

問4 下線部(B)に関して、道家思想に関する記述として適当でないものを、次の ~ の中から一つ選べ。[5]

さればかのあだし国の名にならひていはば、これぞうへもなき優たる大道にして、実は道あるがゆゑに道てふ言なく、道てふ言なけれど、道ありし也けり。

道は常に為す無くして、而も為さざるはなし。侯王若し能く之を守らば、万物將に自ら化せんとす。

昔者、莊周は夢に胡蝶と為る。栩栩然として胡蝶なり。自ら愉しみて志に適するかな。周たるを知らざるなり。

大道廃れて仁義あり、慧智出でて大偽あり。六親和せずして孝子あり。国家昏乱して忠臣あり。

問5 下線部(C)のような生き方をする人について莊子が名づけた呼び名として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[6]

君子 大丈夫 聖人 真人

問6 下線部(D)に関して、陰陽五行説に関する記述として適当でないものを、次の ~ の中から一つ選べ。[7]

理と気の交合によって万物が生まれ、その消長が変化をもたらすと考えられた。

五行とは木・火・土・金・水の五元素をいう。

陰陽五行は宇宙の生成、自然のめぐり、統治のあり方、人体のしくみなど、宇宙から人事にいたるあらゆる現象を説明するのに用いられた。

天体においては月と太陽が、それぞれ陰と陽にわりあてられ、惑星も五行に配当された。

第2問 次の文を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 16)

春秋末期の乱世に小国魯に生を受けた孔子は、外には礼によって失われた秩序を回復し、内には人に接するに仁をもってすべきことを説いた。また古代的、迷信的な天の重圧から人を解放し、一種の合理的、人間中心的な思考を推進した。こうした彼の思想に共鳴する人士がその門に集まって、ここに儒教教団が発生する。この間に傑出したのは孟子と荀子である。(a)孟子は性善説によって孔子の倫理説を内面的に深め、また[8]を唱えて孔子のいう徳治に具体案を示した。次に荀子は、人は生まれつきのままでは善になりえないとして[9]による拘束を重視し、また客観的な教学の整備に努めた。(b)『書経』『詩経』をはじめとする経書は、荀子を前後するころに五経のすべてが出そろったが、経書の学習を必須として教学の柱とすることは荀子に始まる。

儒教の国教化は前136年に五経博士の置かれたときをもって始めとするが、当時の儒教はすでに五経の学習を中心とするものとなっていた。いったい儒教はつねに先王の道を称し、堯舜禹湯文武を聖王として仰いでいたが、発達した儒教は、孔子の教えの淵源はまさにこれらの聖王にあるとし、五経こそは直接に先王の道を記すものであると考えたことから、(c)孔子の言行録である『論語』よりも五経を尊重するようになったのである。しかしもともと難解である五経を前にして、これ以後の儒教は、五経の訓詁学、すなわち「経学」として展開することとなった。

両漢400年間は、王朝の権威を背景として経学がもっとも栄えた時期である。しかし魏晋南北朝時代になると、老荘思想や外来の仏教が盛行して儒教は衰退し、経学にも老荘的注釈が入り込む。唐代に入ると、南北朝に二分されていた経学を統一するために『五経正義』が編纂されるが、またそれは科挙の試験に備えて経義を国家的に統一するためでもあった。かくて儒教は、経学としても固定されて活力を失い、利禄のための学に墮していった。当時において思想界の主流をなしたのは大乘仏教の哲学だったのである。

宋代に入ると儒教の現状に対する反省から革新的な気運を生じた。北宋に始まり南宋の朱子によって完成する宋学がそれであって、五経にかわって四書を尊重し、倫理学としての本来性を取り戻す一方、それを宇宙論的体系のなかに位置づけるものである。天地万物の根元は理である。理は純粹至善であって、人は本性としてその理をもつが、同時に肉体を形成するについては物質的な気を交える。人は気によってもたらされる自己の人欲を抑え、本性に立ち返らねばならない。その方法としては[A], というのである。朱子学は初め異端視されたが、士大夫の支持を得て隆盛に赴き、元代には伝統的儒教にかわって国教となり、以後清末にまで及んでいる。

明代になると(d)王陽明の心学がおこり、官学化して精気を失った朱子学をしのぐ活況を呈した。[10]を説き、理は外にあるのではなくてわが心が理である、という徹底した唯心主義の論である。しかしその末流には、極端に走って読書を廃し、経書の権威を否定する風潮すら生じた。

問1 文章中の空欄〔8〕〔9〕〔10〕に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|------|-----|
| 〔8〕 | 〔 | 王道 | 礼治 |
| | | 徳治 | 霸道 |
| 〔9〕 | 〔 | 義 | 礼 |
| | | 法 | 理 |
| 〔10〕 | 〔 | 格物致知 | 性即理 |
| | | 心即理 | 去人欲 |

問2 空欄〔A〕に入る記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。〔11〕

心と理は一体であるから、心を私欲により曇らせず、心の本来のあり方を理と合致させることが必要である

天道に従うとともに、時には天道に背く人道に努めることによって、恩に対して徳で報いることが必要である。

心を純粹専一の状態に保つことと、読書問学を通して事物について理を窮めることの両面が必要である

誰でも仁・義・礼・智の端緒を自分のうちにそなえており、これを拡充し充実させることが必要である

問3 下線部(a)に関して、孟子の性善説に関する記述として適当でないものを次の～のうちから一つ選べ。〔12〕

人は誰でも他人の悲しみを見すごすことのできない同情心を持っている。

悪を羞じる心を持たないものは人間ではない。

人の生まれつきは似たようなものであるが、習慣や教養によって隔たってくる。

人が学ばずにできることが良能であり、考えずに知ることが良知である。

問4 下線部(b)に関して、五経に含まれる経書として適当でないものを次の～のうちから一つ選べ。〔13〕

礼記 春秋 易経 大学

問5 下線部(c)に関して、次の『論語』の言葉の中で「仁」について説いている記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[14]

子曰く、義を見て為^せざるは勇無きなり。

子曰く、古の学者は己の為にし、今の学者は人の為にす。

曾子曰く、夫子の道は忠恕のみと。

曾子曰く、君子は思うこと其の位を出でず。

問6 下線部(d)に関して、王陽明の語録として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[15]

四書集注

伝習録

近思録

語孟字義

第3問 次の文を読み下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 10)

天地が初めて開けたとき,[16]に天御中主神,高御産巢日神,神産巢日神の3神が出現して身を隠したあと,4柱の単独神と5組の兄妹神が出現する。その最後の組が伊邪那岐命・伊邪那美命の2神である。この兄妹神が淤能碁呂島に降り立ち天の御柱を見立ててその回りを巡り,夫婦となって淡路島をはじめとする大八島等の島々を生む。これが国生み神話である。

その後は海河山野等に関する神々を生み分けるが,最後に火神梶具土神を生んだためイザナミはホト(陰部)を焼かれて死んでしまう。(a)イザナキは黄泉国に棲む妻に会いたくて追って行き地上に戻るよう呼びかけた。これに対してイザナミは「黄泉戸喫(黄泉国での食事)をしたのですぐには帰れない。黄泉神と相談するからその間は私を見てはいけない」と答える。しかし待ちきれなくなったイザナキが禁を犯して中に入ると,妻の肉体は腐乱し蛆がたかっていた。おそれをなしたイザナキは,予母都志許売に追われながらもやっとのことで地上に生還し,日向の阿波岐原で[17]をして死のけがれを清めた。この際,左の目を洗うとき天照大神,右の目を洗うとき月読命,鼻を洗うときに須佐之男命が生まれる。イザナキは大いに喜び,アマテラスに[16]を,ツクヨミに夜の食国を,スサノオには海原を治めさせることにした。ところがスサノオは亡きははの棲む根の堅州国に行きたいと言って泣きわめくばかりであった。たまりかねたイザナキは怒ってスサノオを追放するが,スサノオは姉のアマテラスにいとまを請うてから去ろうと言って天に昇って行った。そのとき山川ことごとく鳴りどよめき,国土はみな震えたという。アマテラスはスサノオが[16]を奪いに来るものと疑って男装して武器をとり,雄たけびいさましく待ちかまえていた。しかし(b)スサノオは姉の疑いを解くために誓約によって子を生まうと申し出る。そこで生まれた神が多紀理毘売命以下の宗像三女神と天忍穗耳命等の神々である。かくして潔白を証明したスサノオはうけいに勝った勢いに乗じて荒れすさび,(c)アマテラスの菅田を荒らすなどの数々の悪業をつくす。恐れ怒ったアマテラスは天の岩屋戸にさしこもり,そのため[16]は闇夜となってしまう。そこで八百万の神々は天の安河原に集い,岩屋戸の前で祭りを行ったが,そのとき天宇受売命は神がかりしてホトもあらわに踊り狂った。このようすを怪しんだアマテラスが岩屋戸を細目に開けたところを,手力雄神が手を取って引き出し,混沌とした秩序は元通りに回復される。

問1 文章中の空欄[16][17]に入れるのに最も適当なものを,次の～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|------|-------|
| 「16」 | [| 葦原中国 | 高千穂 |
| | | 高天原 | 黄泉比良坂 |
| 「17」 | [| 楔 | 祝詞 |
| | | 袂 | 御霊会 |

問2 下線部(a)に関して、黄泉国についての記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[18]

地上と地続きで自由に行き来できる国

暗く穢れた醜い悪しき国

大国主命が死者の魂を審判する国

西方世界にある清らかな国

問3 下線部(b)に関して、この時にスサノオが誓約によって証明しようとした心として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[19]

忠誠心

大和心

清明心

私心

問4 下線部(c)に関して、古事記や延喜式などにあらわれる罪・穢れについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[20]

農耕を妨害したり神祭りを冒瀆したりする行為は「ツミ」とされ、殺生や近親相姦などの行為は「ケガレ」として区別された。

道徳的悪行のみでなく、病をはじめとするもろもろの災いや穢れたこと、醜いこと、その他何でも世の中の人々が憎み嫌うことはすべて「ツミ」とされた。

「ツミ」や「ケガレ」は人間性に深く根ざした悪であり、簡単に許されるものではないと考えられた。

「ツミ」は天罰の対象であるため、天子のくさす刑罰は天罰の代行としての意味を持っていた。

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 10)

かなり古い時期から、大陸の仏教は朝鮮半島を経由して伝えられて、当初は渡来人を中心に、やがて民間に広まっていたが、公式の伝来は欽明天皇の代とされる。その後、蘇我氏の崇仏と物部氏・中臣氏の排仏の争いがあったが、聖徳太子によって仏教の受容が確定し、日本に仏教が根を下ろすことになった。

(a)聖徳太子は仏教思想を取り入れて「十七条憲法」を制定し、仏教の経典を詳しく学んで『三経義疏』を書いた。この時代は中国仏教の黄金時代に対応し、中国に成立した諸宗派が次々と伝えられて、いわゆる南都六宗が成立した。これらはいずれも学問的な色彩が濃く、また1人で2宗以上を兼学し、寺も諸宗を兼ねることが普通で、仏教は鎮護国家を掲げて密接に政治と結び付いた。

平安仏教の中心となる最澄も空海も、京都に都を移した桓武天皇の親任を得て、新しい仏教を開いた。最澄は純粋な求道者の性格が強く、すでに早く天台を学び、都を離れて比叡山に籠り、のち勅許を得て入唐、天台をはじめ密・戒・禅の四宗を相承し、帰国して叡山に四宗合一の天台法華宗を創立した。このような総合的な学風は一乗思想に連なるもので、中国の天台とは異なって、日本仏教の特徴をよく表している。しかし、(b)この天台一乗の立場は、奈良仏教を代表する法相宗の三乗的立場と衝突し、法相宗の徳一との間に盛んな論争が繰り広げられた。

空海是最澄とともに入唐し、長安に長くとどまり、恵果から真言密教を学んでから、多くの経巻や仏具を携えて帰国し、真言宗を開いた。とくに嵯峨天皇の親任が厚く、高野山に金剛峯寺、京都に東寺を建てて真言密教と同時に鎮護国家の根本道場とした。盛んに加持祈禱を行って人々の心をとらえる一方、奈良の諸宗とも協調し、『[21]』などを著して現実主義的色彩の濃い即身成仏の教義を確立した。

平安仏教は貴族の帰依と保護を受け、寺院の造営、祈禱や法会が盛んであり、貴族からの出家者も多かったところから、一般に貴族仏教とよばれる。その結果、僧位僧官が世俗の権威と絶えず密着していた。なお、寺院は貴族から荘園の寄進を受け、逆にその荘園を守るために、僧兵を蓄え、それはやがて僧兵の横暴を招いて、ついには寺が一つの権勢の中心にかわっていった。

仏教思想が当時の文学などに多く影響していることはよく知られている。それがしだいに民衆化していくなかで、平安中期の末法思想が、当時の飢饉、大火、地震などによる社会不安と一致して、人心を強くとらえ、衰えた弥勒信仰にかわって、阿弥陀信仰が栄えていった。それは、ひたすら念仏によって極楽浄土への往生を願うもので、[22]とよばれた空也、(c)『往生要集』を著した源信などにより急速に拡大していった。

問1 文章中の空欄 [21]・[22]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|-------|-------|
| [21] | 〔 | 山家学生式 | 三帖和讃 |
| | | 十住心論 | 一枚起請文 |
| [22] | 〔 | 遊行聖 | 捨 聖 |
| | | 高野聖 | 市 聖 |

問2 下線部(a)に関して、聖徳太子に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[23]

聖徳太子が作ったとされる十七条憲法には大乘仏典からの影響は強いが、儒家、法家、道家などの書の影響は見られない。

聖徳太子が著したとされる『三経義疏』は『法華義疏』、『維摩経義疏』と『観無量寿経義疏』から構成される。

中宮寺天寿国繡帳の銘文に書かれた「世間虚仮、唯仏是真」の言葉は聖徳太子が妃の橘大郎女に告げた言葉であるという。

推古天皇による国分寺造営の詔と大仏造営発願の詔は摂政聖徳太子の発案であるといわれている。

問3 下線部(b)に関して、一乗思想をとる天台教学の立場をあらわす言葉として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[24]

- | | |
|----------|----------|
| 一切衆生悉有仏性 | 南無大師遍照金剛 |
| 色即是空空即是色 | 帰命無量寿如来 |

問4 下線部(c)に関して、源信と『往生要集』に関する説明として適当でないものを、次の ~ の中から一つ選べ。[25]

比叡山横川の恵心院の僧都、源信は平安中期の天台宗の学僧である。

源信は濁世末代の人にとって極楽に往生する道を示す教えこそもっともふさわしいものであるという信念を持っていた。

『往生要集』では、「厭離穢土」と「欣求浄土」の章で現実の苦や不浄、無常などを直視して浄土こそ^{よろこ}喜び願い求める所であることを示している。

『往生要集』では、称名念仏の重要性が説かれ、阿弥陀如来を観察する観想念仏は不要であるとしている。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 16)

平安中期から栄えた浄土信仰の系統から、(a)純粋な浄土宗を確立したのは法然である。彼は比叡山に登り、南都に学んで、智慧第一の法然房とよばれながら、それらの智慧、知識、学問による仏法ではなくて、[A]の『観経疏』に従い、一心に弥陀の名号を念ずることこそ、浄土に往生する正しい方法であるとし、それを『選択本願念仏集』に結集してひたすら称名念仏を勧めた。皇室・貴族や一般民衆にまで急速に広まったこの宗は、既成仏教の弾圧を受け、法然は土佐国に流された。法然没後、浄土宗は門下に異議が生じて諸派に分かれ、さらにその一派から一遍の時宗が出た。

信という一筋の道をどこまでも徹底させたのが (b)親鸞である。比叡山に学ぶこと20年、のち法然に傾倒して、法然流罪のとき越後国に流され、赦免ののち長く東国で布教活動を行い、この間に『D』を完成し、浄土真宗の基礎を確立した。すでに肉食妻帯・非僧非俗を宣言し、一般の民衆とともに、ひたすら弥陀に帰依し、これまでの称名を突き抜けて、弥陀への報恩にまで高まる [26] の信を貫いた。

鎌倉仏教に新機軸を画したのは禅宗である。禅はすでに奈良時代以来しばしば伝えられ、最澄も四宗の一つに数えているが、日本に禅宗が確立したのは、栄西による。彼は二度も入宋して禅のうちの臨済宗を学び、日本に伝えた。帰国後、鎌倉・京都などを巡って禅を広めた。栄西においてなお天台や密教との妥協がみられた禅宗は、道元によってまったく純粋な禅に結晶した。(c)若くして入宋した道元は、彼地にとどまること4年余、最後に[B]に巡り会ってそのもとで修行し、印可を受けた。帰国後ただちに『E』を著して、坐禅の真義を明らかにし、その実践を強調、京都深草と宇治に約10年、越前国の永平寺に約10年住して、『正法眼蔵』の大著を書き続け、厳しい実践を休まず、行住坐臥すべて坐禅に連なることを教えて、[27]を唱え、優れた弟子の養成に努めた。道元の禅宗は曹洞宗とよばれ、道元の語録を高弟の[C]が筆録した『正法眼蔵随聞記』が広く読まれている。

鎌倉仏教の最後に日蓮宗が現れる。これまでの宗祖・開祖がすべて京都ないし京都以西の出身であるのに対し、日蓮だけは関東の出身で、そこで活躍した。日蓮ははじめ真言密教を学び、やがて比叡山に登り、天台を究めて『法華経』第一主義を固め、南都・高野山を巡ってのち故郷に帰り、安房清澄山頂で「南無妙法蓮華経」を高唱して、立宗を宣言した。この時代にはすでに浄土・禅・密などの諸宗が地位を築きつつあったが、日蓮はそれらを激しく攻撃して、ひたすら (d)『法華経』の流布を図った。その意図は国の将来にまで及んで、主著『F』が書かれたが、あまりにも戦闘的なその態度のため、伊豆に、また佐渡に流されたほか、数々の法難を受けた。晩年はその態度も寛容に変わり、甲斐、身延山に籠って草庵を開いたが、やがて江戸池上本門寺で没した。

問1 文章中の空欄 [26]・[27]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|------|------|
| [26] | [| 専修念仏 | 他力本願 |
| | | 絶対他力 | 念仏停止 |
| [27] | [| 見性成仏 | 公案禅 |
| | | 教外別伝 | 只管打坐 |

問2 空欄 [A] [B] [C]に入る人名の組み合わせとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [28]

- | | |
|----------------|----------------|
| 善導 - 天童如浄 - 懷井 | 天童如浄 - 善導 - 懷井 |
| 善導 - 天童如浄 - 唯円 | 天童如浄 - 善導 - 唯円 |

問3 空欄 [D] [E] [F]に入る書名の組み合わせとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [29]

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 教行信証 - 興禅護国論 - 即身成仏義 | 教行信証 - 興禅護国論 - 立正安国論 |
| 教行信証 - 普勸坐禅儀 - 立正安国論 | 歎異抄 - 興禅護国論 - 即身成仏義 |
| 歎異抄 - 普勸坐禅儀 - 即身成仏義 | 歎異抄 - 普勸坐禅儀 - 立正安国論 |

問4 下線部(a)に関して、法然の言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [30]

- 智者のふるまひをせずして、唯一向に念仏すべし。
善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。
五大にみな響あり、十界に言語を具す。
自力作善の人は、ひとえに他力をたのむところ欠けたる間、弥陀の本願にあらず。

問5 下線部(b)に関して、親鸞の「自然法爾」の思想をあらわす言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [31] (1997年センター本試験より)

貪欲なからんと思はば、先ず須く吾我を離るべきなり。吾我を離るるには、無常を觀ずる是れ第一の用心なり。

法華經流布の国に生まれて、この經の題名を聞きて信を生ずるは、宿善の深厚なるに依れり。

しからしむといふは、行者のはじめてともかくもはからざるに、過去・今生・未来の一切の罪を転ず。

悪を懲らし善を勧むるは、古の良典なり。ここを以て、人の善をかくすことなく、悪を見ては必ずただせ。

問6 下線部(c)に関して、道元思想をあらわす言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[32]

事を論ずるには、当に己れの地、己れの身より身を起こすべし。

仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは自己をわするなり。

正定の業とはすなはちこれ仏名を称するなり。み名を称すれば、かならず生ずることを得。

善につけ、悪につけ法華經をすつるは地獄の業なるべし。

問7 下線部(d)に関して、日蓮に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[33]

地震、疫病、飢饉等災害の続出に対して、日蓮はこの原因を道元曹洞禅の流布と人々の法華信仰の棄捨によるものとし、禅宗への資援禁止と法華信仰への回帰を対策すべきと考えた。

1261年には鎌倉幕府により伊豆伊東に流謫された。1263年に赦免、翌年一時期安房に帰ったが、このとき再び当地の浄土教徒に襲撃され鎌倉に戻った。流刑や襲撃により日蓮は自己を孔雀明王の化身とする意識を強めていった。

念仏亡国・禅無間・真言国賊・律天魔などの諸宗批判を加えながら、法華經のみを肯定選択し、諸經や諸行を否定非難する言動をとり、折伏と呼ばれる強烈な弘通の方法を行った。

佐渡の日蓮は流人生活のなかで、『開目抄』などの代表作を書き、釈尊や法華經の功德を凝集する法華經の題目を唱えることによって、その功德がおのずから即座に譲与されるとして唱題の意味づけを行った。

第6問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 16)

日本の儒教は4世紀ころから中国ならびに朝鮮を通じて受容され、近世に入ると日本独自の発展をとげ、日本の政治、経済、社会、文化、教育ならびに日本人の道德意識や心性に少なからぬ影響を与えた。

日本は律令制度を採用、儒教の[34]の思想を受け入れることなく、天の思想にもとづいて天皇の地位を高めようとした。日本の古代国家は大学寮制度を採用し、中級の官吏を育成した。初めそこでは儒教を学ぶ明経道が重んぜられたが、少数の博士家が家学をかりうじて守るという状態になった。

古代の儒教は漢学であったが、中世には新しく勃興した宋学が受容され始める。それをもたらしたのは元の侵略を逃れて渡来した中国の禅僧や、中国に学んだ五山の禅僧たちであった。彼らは禅儒一致の立場をとったが、初め禅が圧倒的に優位を占めた禅と儒教との関係はしだいに転倒し、中世末期には形は僧だが思想は儒者ともいべき禅儒たちの出現をみるにいたった。

近世儒学は漢学折衷学や禅儒という不徹底な身分からの脱却を通じて成立した。その運動の先頭に立ったのが藤原惺窩であり、その弟子の(a)林羅山、松永尺五、羅山の批判者中江藤樹らがそれに続く。近世の儒者は一般に仏教に対しては人倫を軽視するものとして批判的、その反面神道に対しては好意的であった。

ところで近世初期の儒者は朱子学者羅山を除いてみな宋明新儒学の受容のうえに成立した心学、心法の学ともいべき[35]的性格の濃い儒教を奉じた。その後(b)山崎闇斎の出現とともに、朱子学が本格的に理解され受容され始めた。闇斎の学風は価値的観点の強い義理の学であり、その弟子浅見綱斎、佐藤直方を通じて崎門学(闇斎学)派という朱子学一派が形成されてその学統は今日に及んでいる。

日本の儒学の特色の一つは朝鮮の場合のように一つの学派が圧倒的に支配するというのではなく、(c)多様な学派が併存して相互に刺激しあったことであって、朱子学派の中でも経験主義的性格の濃い貝原益軒、新井白石、ならびに中井竹山・履軒、山片蟠桃らの懐徳堂学派の人々があり、朱子学を批判した者には藤樹の弟子の熊沢蕃山や大塩中斎らの陽明学派、ならびに陽明学をも含めて宋・明の新儒学を批判してただちに孔孟の学に戻ろうとした山鹿素行、(d)伊藤仁斎・東涯、(e)荻生徂徠、太宰春台らの古学派、ならびに多くの折衷学派、考証学派の人々を生み出している。

また、荻生徂徠によって江戸前期の内面的志向の儒教は後期の外面志向の儒学へと向きを変えた。このような状況の中で(f)自然哲学者三浦梅園、社会思想家安藤昌益、思想史家富永仲基らの独創的な成果も生まれた。江戸後期の学芸の開花は、徂徠の直接・間接の影響なしには考えられない。

問1 文章中の空欄 [34] ~ [35] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

[34]	〔	克己復礼	易姓革命
		徳治主義	復古主義
[35]	〔	理論	客観
		実践	学問

問2 下線部(a)に関して、林羅山の言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[36]

これを導くに政を以てし、これを斉うるに刑を以てすれば、民免れて恥なし。これを導くに徳を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且つ格し。

凡そ人、理に順はば、則ち天道その中にありて、天人一の如き者なり。欲に順はば、則ち人欲その徳に勝ちて、天はこれ天、人はこれ人なり。

天は尊く地は卑し。天は高く地は低し。上下差別あるごとく、人にもまた君は尊く、臣は卑しきぞ。

草木の生ずるや柔脆にして、その死するや枯槁なり。故に堅強なる者は死の徒にして、柔弱なる者は生の徒なり。

問3 下線部(b)に関して、山崎闇齋に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[37]

心の内面のつつしみは、外にあらわれた自身の在りようを正しく整えることによってあらわされる。

神が真理の根源であり、仏とは民衆を教化するために神が仮の姿をとってあらわれたものである。

なにごとにも作為をろうせず、惟神の道に素直にしたがって生きることが理想の生き方である。

心の内面に先天的にそなわっている良知を窮め、発揮することによって善が実現される。

問4 下線部(c)に関して、次の人物と著作名の組み合わせとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[38]

貝原益軒 - 『春鑑抄』、山片蟠桃 - 『夢の代』、熊沢蕃山 - 『集義和書』

貝原益軒 - 『春鑑抄』、山片蟠桃 - 『翁の文』、熊沢蕃山 - 『翁問答』

貝原益軒 - 『春鑑抄』、山片蟠桃 - 『翁の文』、熊沢蕃山 - 『集義和書』

貝原益軒 - 『養生訓』、山片蟠桃 - 『翁の文』、熊沢蕃山 - 『翁問答』

貝原益軒 - 『養生訓』、山片蟠桃 - 『夢の代』、熊沢蕃山 - 『翁問答』

貝原益軒 - 『養生訓』、山片蟠桃 - 『夢の代』、熊沢蕃山 - 『集義和書』

問5 下線部(d)に関して、伊藤仁斎の主張として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[39](1998 年センター本試験より)

人の悪を心底から憎み、その人を懲らしめ罰するのも、その人の善を望んでそうするのだから、実は愛であり、すなわち仁の理の発露なのである。

誰もがもっている生まれながらの道徳的な心は、そのまま理である。したがって、よく見てみれば、街行く人はみな聖人であることがわかる。

孝は、親子関係に限定されない、宇宙の根本生命の働きそのものである。人はあらゆる他者を愛し敬うべきであり、それが孝の具体的実践なのである。

人も活物であるから、誤りをおかさないわけにはいかない。それを理によって裁こうとすると、寛容を欠くことになり、残忍酷薄に陥りかねない。

問6 下線部(e)に関して、荻生徂徠の思想に関する記述として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[40]

礼楽刑政を離れて、ほかのところに道というものがあるわけではない。

聖人の道は君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友の間にあって、徳は仁義忠信の外に出ることはない。

人の道とは一人についていうものではなく、かならず億千万をあわせた社会の全体についていうものである。

先王の道は六経の中に具体的にしめされた天下を安んずる道である。

問7 下線部(f)に関して、下のA ~ Cの思想の記述の最も適当な組み合わせを、次の ~ のうちから一つ選べ。[41]

A 其達観する処の道は、則条理にて、条理の訣は、反観合一、捨心之所執、依徴於正のみに候。

B 仏滅久遠、人に定説なく亦依憑すべきの籍なく、皆意に随ひて改易し、口相伝授す。宜なるかな一切経説は其の異にたへず。

C 転下を治むと云ふは失りなり。自然には乱も無く、治も無く、唯直耕安食安衣あるのみ。

A - 富永仲基, B 安藤昌益, C - 三浦梅園

A - 富永仲基, B 三浦梅園, C - 安藤昌益

A - 三浦梅園, B 富永仲基, C - 安藤昌益

A - 三浦梅園, B 安藤昌益, C - 富永仲基

A - 安藤昌益, B 富永仲基, C - 三浦梅園

A - 安藤昌益, B 三浦梅園, C - 富永仲基

第7問 次の文章A B C Dを読み下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 18)

A 国学成立の要因としては、水戸藩主徳川光圀が、水戸藩の事業の一つとして『万葉集』の注釈を刊行することを計画し、その材料としての万葉の注釈を提出することを求められた下河辺長流が、[42]を適任者として推挙したことに始まる。[42]が水戸藩に提出した『万葉代匠記』の研究によって確立された文献学的研究方法を基本として、国学は、その学問体系を整えていくのである。しかし、[42]は、儒教・仏教を排斥した後の国学者たちと異なり、日本文化の特質は、神道・儒教・仏教の三教を縦糸とし、和歌を横糸として成立しているところにあると考えていた。

賀茂真淵は、『万葉集』に表現された素朴で素直な人間の心を[43]ととらえ、この高く直き心をもった古代人に、当時の人々が失ってしまった人間の理想をみようとした。

問1 文章中の空欄[42][43]に入る最も適当なものを、次の～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|--------|--------|
| 「42」 | 〔 | 本居宣長 | 荷田春満 |
| | | 佐藤信淵 | 契沖 |
| 「43」 | 〔 | ますらをぶり | からくにぶり |
| | | たをやめぶり | やまところ |

問2 平田篤胤の思想に関する記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[44]

『古事記』『日本書紀』などの古伝説を再編成して『古史成文』をつくり、その注釈『古史伝』において、宇宙の支配がどのように構成されているのかを解明することによって、日本が万国の根本となる国であること、天皇が万国の宗主であることを証明しようとした。

『創学校啓』において、日本古来の神皇の教(古道)が、儒教・仏教の盛行によって廃絶の危機にあることを憂慮し、神皇の教を復興するために、国史・律令格式の研究と、和歌の研究とを柱とする復古の学を提唱した。

当時流行した荻生徂徠の古文辞の説に暗示を得て、『国意考』、『語意考』、『歌意考』、『文意考』、『書意考』を著し、一貫した思想で、国学の全分野にわたって、研究の指針と課題を具体的に示して、国学の学問的性格を明確にするとともに、神皇の道(古道)の究明を目的とする国学の体系を確立した。

京都遊学中に「もののあはれ」説を基軸とする独自の歌学を組織していたが、松坂の旅宿で真淵と対面後、その『古事記』研究の志を継承する決意を固め、半生を費やして『古事記伝』を完成した。

